

公益社団法人化学工学会
粒子・流体プロセス部会 2021 年度臨時幹事会
議事録

日時：2021 年 11月11日（木）18:00-19:10

場所：オンライン(zoom 会議)

出席者：桑木，寺坂，仁志，木俣，三角，藤本，伊奈，野田
(以上 8 名，敬称略)

1. 化学工学会の財務課題に対する部会の意見収集

10/28 に化学工学会の山口経理理事、重光事務局長、河瀬部会 CT 長、小野庶務理事と、部会から部会長と事務局の野田先生が出席し面談があった。その時に説明のあった化学工学会の財務課題について部会長から説明があった。中・長期的にみて遊休資産の取り扱いに関しての対策案が示され、部会としての意見を求められているため、意見聴取が行われた。出された意見は、以下の通り。

- ・そもそも公益社団法人を選択したことが妥当だったのか？
- ・今から一般社団法人へ変更はできないのか？
- ・学会全体で財産を管理し部会は財産を保有しない案は、部会制を立ち上げた意味がなくなるのではないか。
- ・本部から複数案示されているが、どの案に関しても収支を考えれば、どこに使うかが重要であろう。
- ・部会・分科会で収益事業をやって、半分を本部へ、半分を部会・分科会で持つというのが健全なあり方ではないか。
- ・今回はお金の動きばかりに議論がなされているが、部会・分科会レベルでいかに事務作業を減らすかが重要ではないか。例えば、部会・分科会の事業での収益を本部での人件費に回し、特に会計業務を減らして欲しい。
- ・会計関係の人を雇う際、部会として雇うのはどうか。できれば本部で専門の人を雇って欲しい。
- ・部会や分科会の会計をする専任の人が本部にいると助かる。ただし、この専任の人は部会の代理人であって本部側の人ではないとする。
- ・部会や分科会の体制は今のままで、財布は部会や分科会が持つことが望ましい。ただし、会計の事務作業は専門の人にやって欲しい。
- ・各分科会で専門の人を雇う場合は、収益が少ない分科会はできないので困る。
- ・ずっと新しい分科会が誕生していないのは、現在の体制に満足しているからか？いずれにしても研究活動をする受け皿がないと困るので、最低限今の体制は維持したい。

以上の意見を元に話し合った結果、化学工学会から示された案の中では「(ロ) 戻入で調

整」の意見が多かった。しかし、まずは会計業務等の事務作業を減らすことを考えて、そちらに視点から考えて欲しいという強い要望を持つ人が多数であった。事業の収益を会計業務担当の人の雇用費に回し、研究者の事務負担が減れば、収益事業に対するモチベーションも上がるのが期待できるため、ぜひその方向で考えて欲しいと回答することとなった。

2. 部会賞の状況について（仁志副部会長）

部会賞の状況について報告があった。

フロンティア賞、技術賞、動画賞については、今年度は全て応募があり、現在審査を進めていることが報告された。また、シンポジウム賞(奨励賞、プレゼンテーション賞)の賞状を当日発送したことが報告された。

3. その他

特になし

以上